

隠岐広域連合議会

ジェットfoil整備事業

4か町村合せて総額22億円

▼一般会計補正予算は、16億3500万円余りの増額で、その主なものは、地域医療支援コーディネーターの賃金等、超高速船導入事業のための臨時職員の賃金、ジェットfoilの購入費などである。

▼平成22年度隠岐広域連合一般会計歳入歳出決算ほか6件の決算は、決算審査特別委員会を設置して審査することとした。

▼隠岐広域連合広域計画の一部変更は、レインボ12の後継船ジェットfoilを導入する事業実施のため、計画の一部を変更するもの。

▼仁万の里事業では、3070万円余りの増額で地上デジタル放送改修工事、仁万の里施設整備の設計委託費、豆腐製造用のボイラーや冷蔵庫の購入費などである。

「隠岐汽船」を指定管理者として・・・とあったが、指定管理は公募によるべきもので、広域計画に固有名詞が入ることは問題だと議員から指摘があり、「民間運航会社を指定管理者として・・・」と変更された。

平成23年第3回定例会が、9月7日、都万支所の広域連合議場で開催され、提案された議案のうち、決算認定案件を除き全会一致で可決・承認した。

▼財産取得は、隠岐病院の医療機器(CT・MRI装置など)を購入するもの、また、隠岐島消防本部のはしご消防車を購入するもの。

ジェットfoil 14億4640万円で購入

10月4日、隠岐広域連合第2回臨時会が開催され、レインボ12の後継船ジェットfoil購入の議案が可決された。

▽取得金額 14億4637万5千円

▽契約相手方

鹿児島県 いわさき

コーポレーション(株)

報告者 高宮陽一

総合交通対策特別委員会

委員長 齋藤 昭一

*生活交通網整備促進

廃止バス路線の代替運行やコミュニティバス・デマンドタクシー運行について検討を続け、23年4月から隠岐病院発着を起点として新交通体系を開始した。また数か月の実績だが、利用率は低迷している。利用者の慣れない点が原因ではないかと思われるが、しばらくはこの体系を続け、様子を見るとの事だ。しかし、原因をしっかりと調査し、早めの改善を要望した。

*隠岐航路整備促進

隠岐汽船は経営再生会議のもと経営改善が図られ、昨年度黒字を計上し終了したばかりだ。しかし、4月時点で重油価格の高騰により23年7月には運賃値上げをし、利用者負担が余儀なくされた。燃油サーチャージを取り入れるとの事だが、価格下落は望めそうにない。

*隠岐空港利用促進

夏季ジェット便就航も6年を経過しその平均搭乗率も80%を維持している。今後は悲願ともいえる東京便就航の実現と、出雲便の利用率UPが課題だ。その対策の一つとして、年間を通じ隠岐発午前のダイヤ実施を要望することを、当特別委員

会としては決定していたが、要望先等が決まらず実行できなかった。この件は担当執行部に引き続き調査を要望する。

当特別委員会では隠岐汽船との意見交換を9月6日に開催した。隠岐汽船から佐々木常務、池田部長、若林部長の出席を得て運賃値上げの件や特2を2等に組み入れると3,500万円位の減収になり困難であることや、自動券売機設置は運賃体系の複雑さから難しい、等々の意見交換をした。

運賃の値上げはあったが、旅客サービスは利用者あつての船会社という基本の再確認をして頂きたいと感じた。事あるごとに行政もテコ入れをしてきたが、意見を言える立場を確立していく必要を感じた。

平成21年6月隠岐の島の交通全般(陸・海・空)の離島交通繁栄を目指し、総合交通対策特別委員会を設置し付託された。重要課題は審議を終えたと判断し、今後は総務産業建設常任委員会でも更なる成果があげられる事を願い、今定例会をもって終了する。



購入が決定したジェットfoil



町の主要交通網

医療対策特別委員会

委員長 小野 昌士

平成20年3月19日、医師招聘に関する事項及び病院建設に関する事項を審議するため医療対策特別委員会を設置した。地域住民の安心、安全な暮らしを守ることは住民の代表である議会の果たすべき役割、責任であり。

その上からも、このことについては私たちそれぞれに強い思いがあった、町においても定住の根幹にかかわる問題として、非常な危機感と決意のもとに、医師招聘担当係が設置され、委員会は執行部と共通認識を持って責任を共有し、積極的に地域医療の整備充実に取り組みことを確認し、「医師が来てくれる島づくり」をめざし活動してきた。特に旧村診療所の維持については、平成20年5月国民健康保険都万診療所の内科医常駐体制確保について、都万区長会から

の要望を機に町営診療所に求められる、かかりつけ医としての役割、在宅医療の充実の観点から現状の診療所での医療機能維持を確認するとあわせ、次の事項について調査、検討、提言することとした。

◎診療所を核とした保健活動の体制づくり

◎超高齢社会に対応すべく、診療所、隠岐病院との病診連携と訪問看護や終末期医療を含む在宅医療の体制及び住民が受診しやすい交通手段の確保

◎住民に医師不足の現状と「医師が来てくれる島づくり」について理解と協力を求める働きかけの推進

◎大きく採算割れしている歯科診療所の検証



着々と工事が進む
新隠岐病院。

◎診療所医師4名体制の検討、を中心に調査、活動、審議を重ねた結果、隠岐病院建築も含め町の医療を取りまく諸環境は隠岐での医療完結率を高める等の課題はあるものの「不安定ながら安定」した状態であり当医療対策特別委員会はその役割を十分果たしたとの結論に至った。医療対策特別委員会としての終わりの報告とする。

竹島対策特別委員会

委員長 前田 芳樹

◎竹島問題全国アピール集会開催の件

韓国が進めている総合海洋科学基地建設の阻止と竹島に続々と新たな構造物を作っている韓国の最近の行動に抗議するため全国アピール集会を開催する必要がありはしないかと審議した。委員会としての結論は、韓国が独島記念日としている10月25日がタイムリーで効果が大きい時にやること

が大切だ、などの意見も有り、10月25日に東京の憲政記念館で開催することに委員全員が賛成であった。これに関し、隠岐の島町と島根県の協議状況の説明を執行部から受けた。町としては早期開催を望んでいるが、現段階での県の対応状況では早期開催は不透明であるとのことであった。

◎鬱陵島視察派遣の件

自民党領土特命委員会の新藤義孝氏のグループで国会議員4名、竹島問題研究会の下條正男氏のグループで民間人5名と外務省関係者数名とマスコミ2社、が8月1日から鬱陵島の独島記念館の視察に行くので、地元

の隠岐からも下條グループに何人か派遣してはと研究会から依頼が来た。派遣するの、人選をどうするのか等を審議した。その結果、委員長を1人派遣しようとした。然し、直前になつて想定以上の韓国側の騒乱状況が発生したために、身の危険が有るとの情報もあり、入国出来るかどうかも定かではないため、再度協議の結果、今回は中止とした。

◎今後の調査活動計画

諸団体との協議会は随時実施。まず、島前3町



竹島かえれ、島と海

村関係者との協議会をする。島民の意識昂揚のための広告活動の方法として、啓発ポスターを全戸或いは全事業所の玄関付近に貼らせていただくのはどうか、等の意見があった。学校歴史教科書の勉強会開催、竹島漁撈歴史記念館の建設、等は今後の検討課題とした。